

主なそば品種と栽培地域

1. ～山形県育成品種～

品種名：「**最上早生**」作付け面積割合：約46%

品種名：「**でわかおり**」作付け面積割合：約44%

品種名：「**山形BW5号**」
新品種として平成30年から一般作付

2. ～その他の品種～

品種名：「**来迎寺在来**」「**常陸秋そば**」等
作付け面積割合：約10%

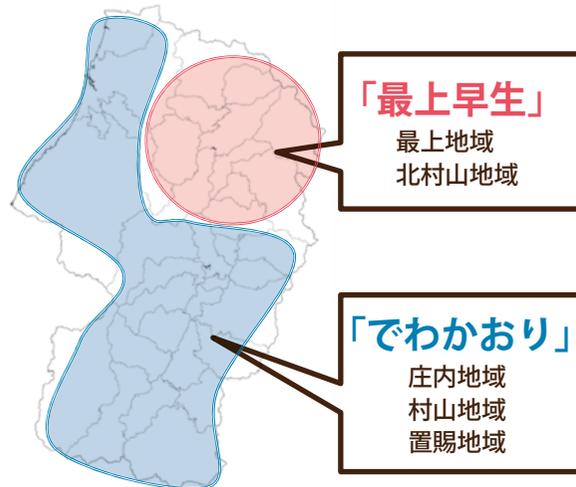


図 「最上早生」と「でわかおり」の栽培地域

平成29年 山形県農業技術環境課調べ

蕎麦(そば)王国 山形県

～そばの栽培～

山形県のそば作付面積は5,000haを超え、北海道に次いで全国第2位であり、本州では第1位を誇るそばの一大産地です。

表 平成28年そば作付面積 上位5都道府県

順位	都道府県	面積 (ha)
1	北海道	21,500
2	山形	5,100
3	長野	4,130
4	福島	3,860
5	福井	3,760
国内合計面積		60,600

(出典：農林水産省統計情報)

～多様なそばの食文化～

山形県は「蕎麦処」として全国的に有名です。県内でも各地域ごとの食文化に根差した多様な形でそばが親しまれています。また、県内各地に存在する「そば街道」や、白い花が一面に広がるそば畑の景観は観光資源としても非常に重要な位置付けにあります。



平成30年2月

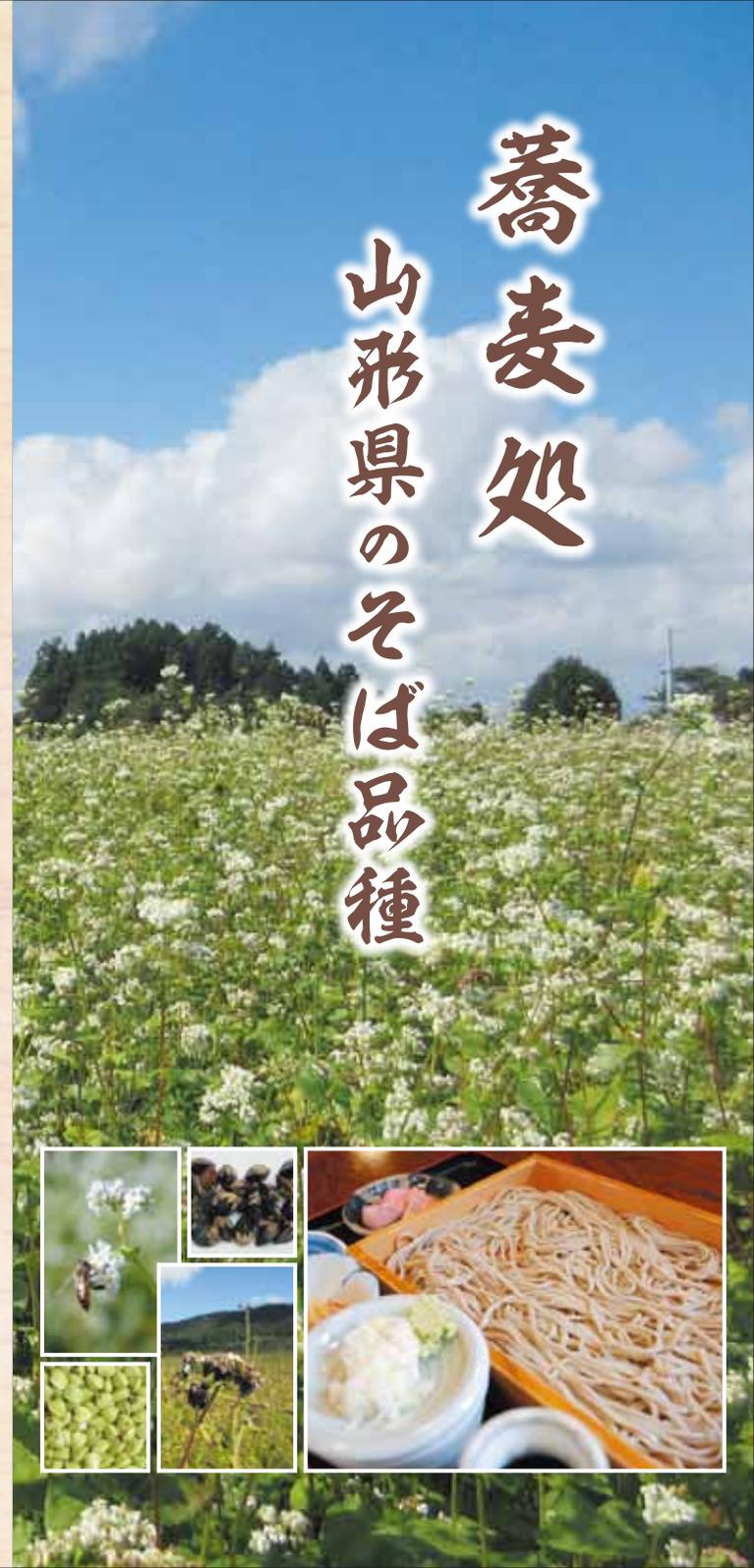
編集 山形県農業総合研究センター

発行 山形そばプロジェクト会議・山形県

リサイクル適性 (A)
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

蕎麦処

山形県のそば品種



1. 「最上早生」

(Mogamiwase)

～ 育成経過・品種特性 ～

大正8年に旧山形県立農業試験場において、在来品種より純系分離した系統で昭和62年に特性維持のため再度純系分離を行った。

そばの香りと麺の緑色が強い品種である。

播種期：8月2日
開花期：8月30日
熟成期：10月12日
収量：130kg/10a
千粒量：33.7g
容積量：646g/L



2. 「でわかおり」

(Dewakaori)

～ 育成経過・品種特性 ～

昭和63年に山形県立農業試験場において、「最上早生」種子の大粒化を図り、高品質の系統を選抜・育成した。

子実が大粒でそばの香りが良い品種である。

播種期：8月2日
開花期：8月31日
熟成期：10月15日
収量：87kg/10a
千粒量：36.8g
容積量：584g/L



3. 「山形BW5号」

(Yamagata“BW”5go)

～ 育成経過・品種特性 ～

平成20年に山形県農業総合研究センターにおいて、「でわかおり」を母に「常陸秋そば」を父に交配し、多収で耐倒伏性に優れた系統を選抜・育成した。

収量が多く、麺の白色と緑色が強い品種である。

播種期：8月2日
開花期：9月1日
熟成期：10月20日
収量：139kg/10a
千粒量：35.7g
容積量：616g/L



品種比較 (写真)



図 成熟期の形態(上)、玄そば(下)

※品種特性値は山形県農業総合研究センター試験結果 (平成22～25年)

系譜図

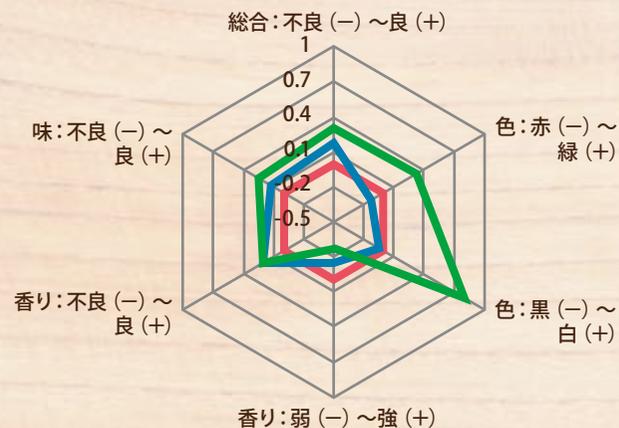
～「最上早生」から「山形BW5号」への系譜～



麺の食味評価

～ 各品種で異なる食味特性 ～

いずれも食味特性に優れた山形県が誇る良食味品種ですが、食味特性は品種ごとに異なります。ぜひ、品種の特徴も感じながら山形の美味しいそばを堪能して下さい。



■ 最上早生(基準) ■ でわかおり ■ 山形BW5号

※丸抜き子実を製粉し、製麺方法は手打ち(そば粉：小麦粉=8：2)

(山形県農業総合研究センター：平成22～25年)